

# 平成23年度

## 登録左官基幹技能者認定試験問題解答 (60分)

### 九州ブロック

受講番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60分

2. 問題数 25題 (四肢択一法)

3. 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
- (2) 受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- (3) 本冊子は、表紙を含めて8ページです。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合には、黙って手を上げて申し出てください。
- (4) 試験開始の合図で始めてください。
- (5) 解答の方法は、次のとおりです。
  - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
  - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。  
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
  - ③受験番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
- (6) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (7) 試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
- (8) 答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席しててください。

社団法人 日本左官業組合連合会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

**問題1 建設業界の現状に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 技能レベルを反映した賃金や処遇の改善は、技能者にとって不利である。
2. 建設業界は、バブル経済期に抱えた不良債権の処理のため、企業のリストラクチャリングに取り組む必要がある。
3. ゼネコンや一部の専門工事業者では、自社の直接施工部門を縮小し、外注比率を高める傾向がある。
4. 専門工事業は、技能者の賃金のダウンや人材育成にかける余力を失い、高齢化の問題等の実態があり、優秀な技能者不足が生じている。

**問題2 登録左官基幹技能者に必要な能力に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 未熟練の左官の作業者をレベルアップさせるOJTを行う能力
2. 技術者の示す施工計画等から現場に適した左官の技能面からの施工方法・作業手順・工夫の提案能力
3. 現場をまとめ、体系だった効率的な左官作業を実施するための管理能力
4. 他職の技能者を指揮・監督できるだけの十分な作業能力

**問題3 登録左官基幹技能者に必要な資質に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 約束を守ることができる者
2. 虚栄心のある者
3. 理屈を言う前に実行できる者
4. 健康である者

**問題4 建設工事の請負契約に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 建設工事の請負契約は、工事内容、請負代金の額、工事着手の時期および工事完成の時期等の必要事項を書面に記載し、相互に交付しなければならない。
2. 建設業者は、請け負った建設工事を一括して他人に請け負わせてはならない。
3. 建設業者は、建設工事を一括して請け負ってはならない。
4. 建設業者は、当該建設工事が多数の者が利用する施設等の政令に定めるものの建設工事の場合は、発注者の書面による承諾を得た場合に限り、一括して請け負っても良い。

**問題5 建設工事の請負契約に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 特定建設業者が、元請となって発注者から直接建設工事を請け負った場合において、3,000万円（建築一式工事の場合は4,500万円）以上を下請に出すときは、主任技術者を置かなければならない。
2. 特定建設業者は、3,000万円以上を下請けに出すとき、施工体制台帳を作成し、工事現場ごとに備え置かなければならない。
3. 建設業者は、元請であれ下請であれすべて、建設工事を施工するときは、工事現場に主任技術者を置かなければならない。
4. 元請人は、下請工事が完成した旨の通知を受けたときは、20日以内に検査をしなければならない。

**問題6 特定建設作業に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 指定地域内で特定建設作業を伴う建設工事を施工しようとする者は、作業開始の7日前までに市町村長に届出なければならない。
2. 騒音規制法における特定建設作業は、空気圧縮機を使用する作業が含まれる。
3. 振動規制法における特定建設作業は、移動式クレーンを積載したトラックを使用する作業が含まれる。
4. 市町村長は、指定地域内で行われる特定建設作業に伴って発生する振動または騒音が、規制基準を超えて周辺の生活環境が著しく損なわれると認める場合は、振動または騒音防止の方法の改善などを勧告あるいは命令することができる。

**問題7 資源有効利用促進法および建設リサイクル法に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 建設副産物とは、建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設汚泥、紙くず、金属くず、ガラスくずなどをいい、建設発生木材（木くず）は含まない。
2. 特定の建設資材についての分別解体や再資源化の促進等を目的とする法律を、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（「建設リサイクル法」）という。
3. 「建設リサイクル法」においては、土砂、コンクリートの塊、アスファルト・コンクリートの塊が再生資源に指定されている。
4. 建設副産物は、それらの価値の有無、再利用の可否とは関係がなく、工事現場から排出されたすべての物品が該当する。

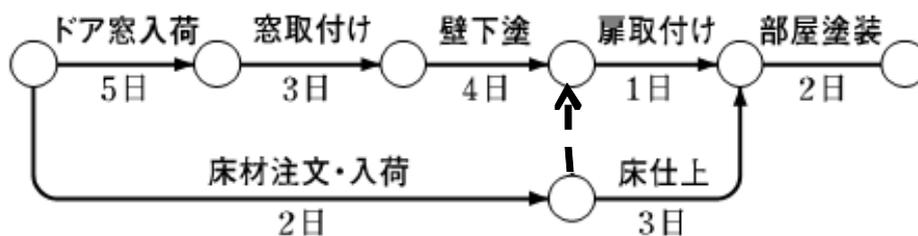
問題8 VE(バリュー・エンジニアリング)活動に関して、最も不適当なものはどれか。

1. VEは、その働き(機能)を果たす多数の手段の中から、最も合理的で、経済的な手段を選びだすことが仕事である。
2. VEは、これを企業の中で実施するには、組織的な活動が必要である。
3. VE活動は、価値を評価する要素は、顧客の要求を見極めたり、ライフサイクルの総コストを分析するなど、社内外の、極めて広い範囲にわたる情報が必要である。
4. VE活動は、情報や知識の少ないメンバーを集めて、少数かつ個人的な活動として推進しなければならない。

問題9 VEをブレインストーミング(BS)の手法を用いて行う場合に関して、最も不適当なものはどれか。

1. BSのルールでは、他人の意見を批判しない、量を出すことが優先されることから、安心して誰もが自由にアイデアを述べることができる。
2. BSは、7~8人程度の少人数の集団で、ある人の意見やアイデアに関して他の人たちが連鎖反応を示し、多彩・豊富・独創的な考え方を引き出す働きがある。
3. BSにおけるアイデアや意見に関する連鎖反応は、チーム全体の楽しさや競争心を生み出すことにつながっている。
4. BSのメンバーは、専門家、ゼネラリスト等で構成し、他分野の専門家は入れないほうが良い。

問題10 以下に示した工程表に関して、最も不適当なものはどれか。



1. この工程表は、アロー型ネットワーク工程表である。
2. クリティカルパスは、17日である。
3. → はアクティビティを示している。
4. ○ はイベント(結合点)を示している。

**問題 1 1 塗壁の故障の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 強度不足 — 剥離・損傷 — 調合を替える。
2. 不純物を含む砂 — 強度不良・ひび割れ — 洗浄・取り替える。
3. 細かい砂 — 網状ひび割れ — 粗めの砂を混ぜる。
4. 上塗りの富調合 — はく離・ひび割れ — 上塗り材料をより富調合とする。

**問題 1 2 塗壁の故障の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 下地の吸水小 — はく離・ひび割れ — 吸水調整材を原液にする。
2. 目地処理不足 — 付着不良 — 目地処理を充分行う。
3. さび止めしない鉄部 — さび発生（せっこうプラスター） — さび止めを行う。
4. ドカ付け — ひび割れ — つけ送りを行う。

**問題 1 3 外壁の雨掛かりを低減する配慮として、最も不適当なものはどれか。**

1. 開口部に霧除け庇を設けることは、雨仕舞いの弱点となりがちな開口部廻りの保護のほか、雨、雪、夏の日差しから外壁や開口部を守る上で重要である。
2. 基礎を高くすることは雨掛りや地面からの跳ね返りを軽減する上で有効である。
3. 雨の跳ね返りを軽減するため建物の外周をコンクリート仕上げとする。
4. 柱、梁にちりじゃくりを設けることにより、木材や左官材料が収縮した際に、水の浸入を軽減することができる。

**問題 1 4 住宅瑕疵担保責任保険 設計施工基準の外壁の防水に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 通気構法の外壁に用いる防水紙は、JIS A 6111(透湿防水シート)に適合する透湿防水シートまたはこれと同等以上の透湿性能及び防水性能を有するものとする。
2. 直張りの防水紙は、JIS A 6005(アスファルトルーフィングフェルト)に適合するアスファルトフェルト 430 または透湿防水シートとする。
3. 防水紙の重ね合わせは、縦、横とも 90mm 以上とする。
4. 外壁開口部の周囲は、防水テープを用い防水紙を密着させることとする。

問題 15 ラスモルタルの評価基準の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

1. ラス下地板 — 厚さ 12mm 以上 — ステープルを 100mm 以内で留めつけられる間隔
2. ラス — 波形 1 号 — 重ね 50mm 以上
3. ステープル — 1019J 以上留付け — 100mm 以内
4. 防水紙 — アスファルトフェルト 18 kg/巻 — 重ね 50mm 以上

問題 16 左官材料のひび割れ発生を低減するせっこうボード張り工法に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 入隅は木下地で補強し、出隅は紙が巻いてある面を L 型コーナー部に取りつける。
2. 開口部の出隅は継ぎ目を設ける。
3. 開口部回りはメッシュ等を張る。
4. ボードは、千鳥に張る。

問題 17 JIS A 6909（建築用仕上塗材）の仕上塗材の種類および呼び名の記述に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 外装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材 — 外装薄塗材 E
2. 内装消石灰・ドロマイトプラスター系薄付け仕上塗材 — 内装薄塗材 L
3. 内装水溶性樹脂系薄付け仕上塗材 — 内装薄塗材 W
4. 内装せっこう系薄付け仕上塗材 — 内装薄塗材 C

問題 18 ALC パネルの記載に関して、最も不適当なものはどれか。

1. ALCは、工場でオートクレイブ（高温・高圧養生）した超軽量コンクリートパネルである。
2. ALCパネルは、左官塗りの下地として、コンクリートに比べ吸水性が大きく、厚手の左官塗りを行ってはならない。
3. ALCパネルの欠損部の補修には、反応硬化形で剛性・強度の大きな合成樹脂を用いる。
4. ALCパネルジョイント部は、パネル取付け構法に応じた所定の位置や、出入隅部、他部材との取合い部にも伸縮目地を設ける。

**問題 19 建設副産物対策について、最も不適当なものはどれか。**

1. 施工方法などを工夫して発生を抑制する。
2. 建設副産物対策の基本は、最終的にその種類と量が確認できれば良い。
3. 廃棄物の不法投棄を無くし適正な処分を徹底する。
4. 建設資材としてリサイクルを促進する。

**問題 20 原価管理の概要について、最も不適当なものはどれか。**

1. 原価管理は入札時に算定した工事費すなわち見積を実行予算に置き換え、管理する。
2. 原価管理とは発注者が満足する工事の質を維持し、定められた工期内で適正な利潤を確保するために工事費を管理する業務をいう。
3. 請負工事を成功するためには、施工計画のすべてを折り込んだ適正な実行予算を作成する。
4. 原価管理は最も経済的な施工計画に基づいて実行予算を設定する。

**問題 21 施工計画を立てるにあたっての以下の項目に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 工事の契約書、設計図書などを十分に理解するとともに、現場条件を調査しておくなければならない。
2. 全工種の詳細な工程を検討してから、基本工程表を作成する。
3. 安全計画、環境保全計画も同時に作成する。
4. 施工計画は工事管理機能の循環活動の第1段階であり、計画 → 実施 → 検討 → 処置のサイクルを経て、さらに検討により再計画へと循環するものである。

**問題 22 屋上パラペットについて、最も不適当なものはどれか。**

1. パラペットは背が低く、周囲の3方が外気に接するため乾燥収縮の速度が速くひび割れが発生しやすい。
2. 屋上パラペットのコンクリートの打継ぎ部は漏水を発生させる原因となりやすいため、できるだけ打継ぎを無くすよう、最上階のコンクリートと同時に打設することが望ましい。
3. 屋上防水に影響するため、パラペットの内側の壁には誘発目地を入れない。
4. パラペットには通常よりも多く、細かいピッチで誘発目地を入れる。

**問題 2 3 労働安全に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 日本最初の労働保護法規として工場法が公布されたのは明治 44 年である。
2. 労働安全の基本は「元気に家を出て、元気に仕事をして、元気に帰る」である。
3. 現在の目指すべき目標は単に「災害がない職場」から「より健康的で、より快適な職場」へと変化してきている。
4. 労働基準法が制定されたのは戦前の大正元年である。

**問題 2 4 安全衛生管理の進め方に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 安全管理を推進するには自主性や自発性を無視して上からの管理に徹する必要がある。
2. 安全衛生のルールや作業標準を整える必要がある。
3. 事前に潜在する危険性や有害性を洗い出して対策を考えておく必要がある。
4. リスクを見積り、評価し、その対策を行う必要がある。

**問題 2 5 安全衛生教育の進め方に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 安全衛生教育は大きく法定教育と法定外教育に分けられる。
2. 職長教育は法定教育に分類される。
3. 教育の進め方として OJT（職場教育）に限られる。
4. 教育計画は長期的展望に立ち、それぞれの企業に適応した計画を立てる必要がある。